

# 明日への扉

No.23



Masahiro Maeda

前田 将宏 さん

## 目指すは東京オリンピック

## 感覚の競技カヌーで魅せる



大会で学校を空ける時も多かったが、先生や友だちの支えもあり、勉強も頑張ることができたと話す。一般入試で大学に入るため、現在は、しばしカヌーから離れて、受験勉強に集中。（中央が前田さん）

平成10年鹿屋市吾平町生まれ。吾平小学校、吾平中学校卒業。今年8月に山口県で開催された高校総体では、カヌースプリント男子カヤックシングル200mで悲願の初優勝。中学1年生から最近まで鹿屋市カヌークラブのキャプテンを務めた。鹿屋高校3年生。（18歳）

吾平町が昔からカヌーが盛んな町だったことや、6歳離れている一番上の兄がカヌーを習っていたこともあり、小さい頃からカヌーには慣れ親しんでいました。

私がカヌーをやり始めたのは小学5年生の時から。吾平町カヌースポーツ少年団（現・鹿屋市カヌークラブ）に入り、現役の国体選手でもある鶴崎辰徳先生の指導のもと、地元の始良川で練習する毎日でした。入団後、一番最初の試合で負けたことがすごく悔しく、そこから、「負けたくない」という気持ちで強く持つようになりました。

出場種目であるカヤックシングルは、カヤック（艇）に1人座って乗り、1本のパドルを使って、左右両方の水面を漕ぐもので、9艇が並んでスタートし、500mや200mなどのタイムを競います。

中学1年生の時、高校からカヌーをやり始めて1か月しか経験の無い二番目の兄に、タイムで負けたことに大変なショックを受け、それから誰よりも、1日でも1時間でも多く練習するようになりました。兄だけには負けたくないという気持ちがあったからです。

練習の成果もあり、中学3年生の時には東京国体に出場。カヤックシングル200mで7位に入賞しました。それから高校3年生まで、高校総体や国体などの全国レ

ベルの大会に毎年出場し、好成績を収めるようになりました。

しかし、これまですべてが順調だったわけではなく、高校1年生の時にはスランプも経験しました。それは、漕いだ時の感覚的な違和感から始まり、どうしても治せませんでした。このスランプは、鹿屋市の事業で招かれていた有名な県外の指導者の何気ない一言で劇的に改善しました。この時から「この感覚を忘れてはいけけない」と思うようになりました。

そして、集大成とも言える今年の夏の高校総体では、200mで優勝、500mでも準優勝を勝ち取ることができました。

カヌーの魅力は、水面を滑るように漕ぐ楽しさと、培った感覚で競技できるということ。また、練習をやればやっただけ、記録を伸ばせる競技であるということも魅力の一つだと思います。

大学でもカヌーを続け、大学4年生の時に開催される東京オリンピックへの出場を目指します。そして大学卒業後は引退し、指導の道を歩みたいという夢もあります。ぜひ多くの子どもたちにもカヌーの楽しさを知ってほしいです。



FMかのや 7・2MHz  
11月28日(月) 9時5分から  
前田 将宏さんが出演  
(予定)